

## 鴨川の中州・寄州の管理について

平成21年度から調査・検討を行いながら継続的に進めてきた中州・寄州の管理について、今後10年を見据えた管理の方針（案）をまとめました。

### ① 管理の現状

#### ◆ 柵野堰堤～二条大橋

10年1サイクルを基本として堆積土砂の撤去を実施 → 約10万m<sup>3</sup>の土砂を撤去

#### ◆ 二条大橋～七条大橋

土砂堆積が認められ次第、河床整正を実施 → 台風後も顕著な堆積は見られない

#### ◆ 七条大橋～桂川合流部

河川改修とあわせて河床掘削を実施

### ② 土砂堆積の傾向

- ・ S10年計画時の河床高と比べ、ほぼ全区間において低下傾向にある。
- ・ H26年度までに掘削を実施した区間は、掘削後に再び上昇している区間が多い。
- ・ 北大路橋下流 (13.6k付近：H23掘削) や北山大橋上流 (15.2k～15.4k：H25掘削)、志久呂橋付近 (17.2k～17.6k：H22掘削) では、掘削前の平均河床高 (H19平均河床高) よりも上昇している。  
※志久呂橋付近・・・H26～30の堆積が顕著（台風などにより上流から土砂が供給）

### ③ 中州管理の方針

#### ◆ 柵野堰堤～二条大橋

「※維持管理のための計画(目標)河床高」を設定し、土砂撤去を実施

計画河床高： 中州・寄州の堆積も考慮した上で、治水安全度を維持するための河床高とする

設定区間： 10年後の堆積を考慮した場合に、治水安全度が確保できない区間  
現況能力に応じてABCランクの区間を設定

#### 区間

- |                             |                             |                              |
|-----------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| A) 現時点で整備目標洪水に対してHWLを超過する区間 | B) 5年後に整備目標洪水に対してHWLを超過する区間 | C) 10年後に整備目標洪水に対してHWLを超過する区間 |
|-----------------------------|-----------------------------|------------------------------|

#### ◆ 二条大橋～七条大橋

- ・ 引き続き、土砂堆積が認められ次第、河床整正を実施

#### ◆ 七条大橋～桂川合流部

- ・ 引き続き、河川改修とあわせて河床掘削を実施

### ④ 今後の進め方（予定）

- ・ R2度：現時点で堆積が著しい「A区間」について、土砂撤去を実施
- ・ R3度：上流の土砂補足が下流の堆積を抑制できないか、試行的に柵野堰堤を浚渫

中州・寄州の管理状況

H22施工



H24及びH29施工



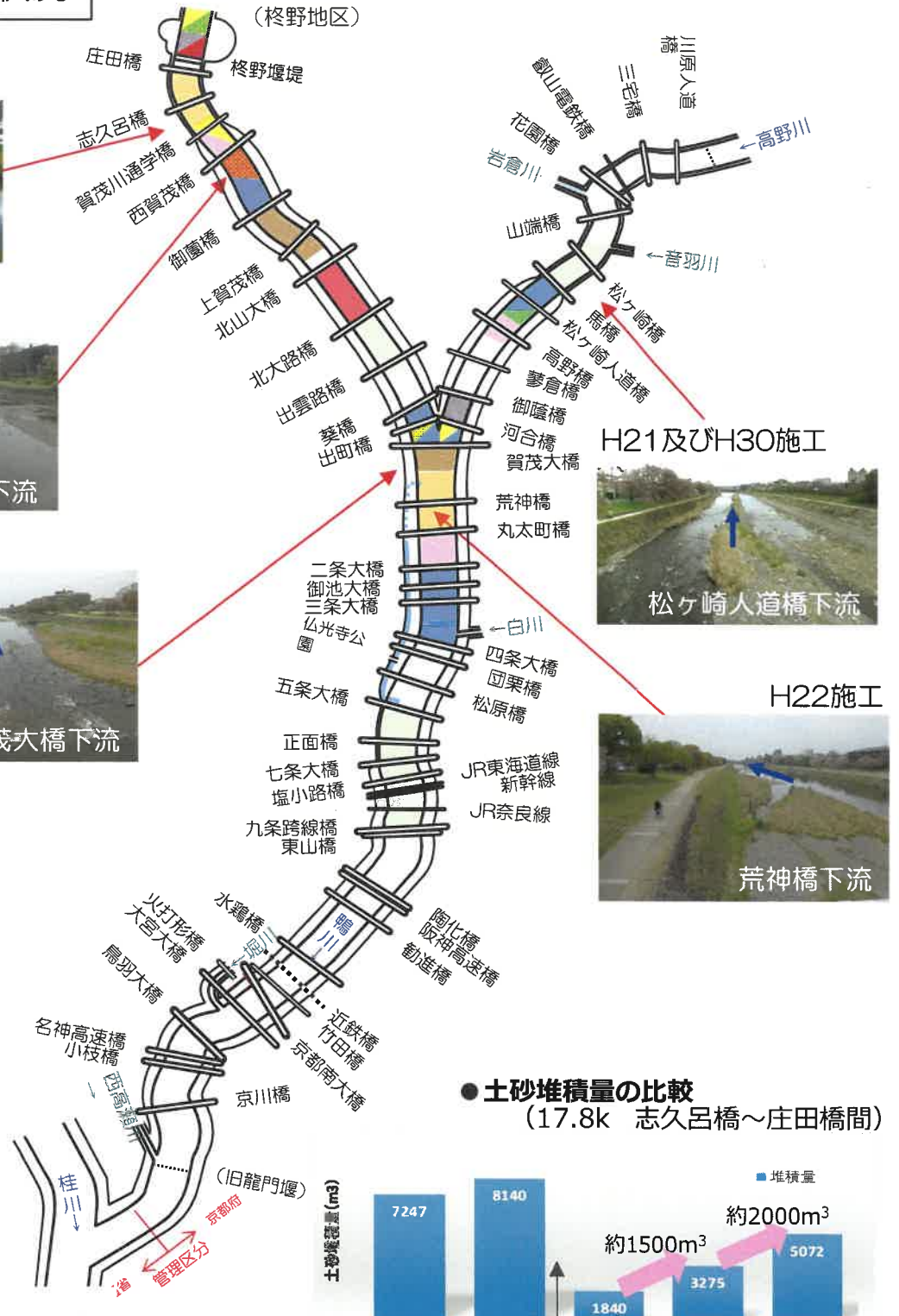
H25施工



H21及びH30施工



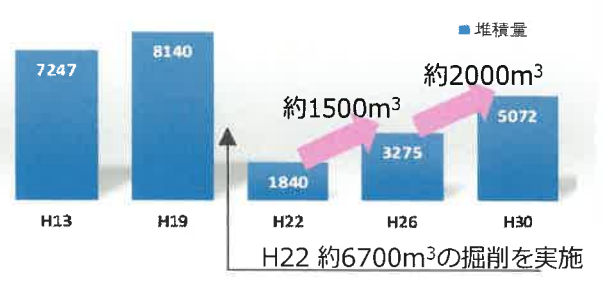
H22施工



**施工範囲**

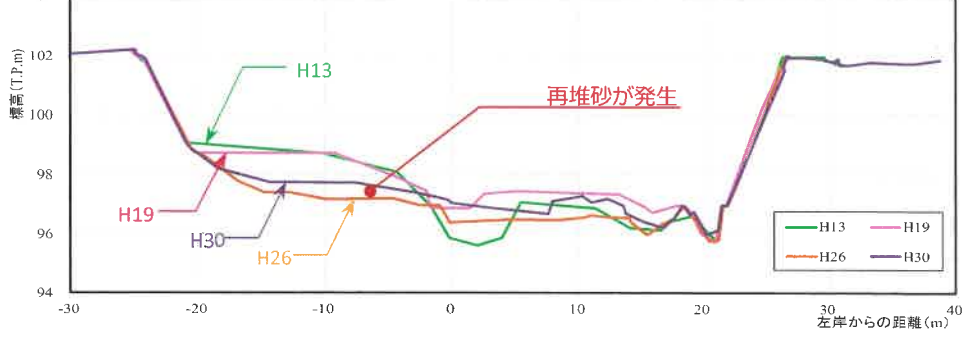
	H21
	H22
	H23
	H24
	H25
	H26
	H27
	H28
	H29
	H30
	R1(予定)
	H21及びH27
	H24及びH27
	H21及びH29
	H21及びH30
	H27及びH30
	H26及びR1

●土砂堆積量の比較 (17.8k 志久呂橋～庄田橋間)



※堆積が顕著な区間は概ね限定できる

●河道横断の変化 (17.8k 志久呂橋～庄田橋間)



# 中州・寄州の管理方針



## 河床の掘削方法

- 寄州では深掘れによる護岸の損傷を防ぐため、護岸付近を幅2m程度残した上で、掘削を行う。
- また、中州では水際の保全を行うため、河道水位※から高さ20cm、幅50cm程度を目安に水際を残すように掘削を行う。(※H30年度定期横断測量時の水位を使用)

